

生活 & 総合 navi

vol.76 MAY 2019

新版
生活科
教科書
特集

[2020年度版生活科教科書特集号]

日本文教出版 新版生活科教科書

「わたしと せいかつ」

[座談会]

生活科実践者でもある著者が現場の目線で「教科書を語る」
生活科が10倍楽しくなる教科書

[多角的な視点で教科書を解説]

“無理なく質の高い授業”ができる教科書をつくりました

Webを活用すれば生活科はもっと楽しくなる

村川先生のカリキュラム・マネジメントゼミ

野口先生のアクティブ・ラーニング教室

生活科を理科とつなぐ・社会科とつなぐ



2020年度版 生活科教科書上巻p.122

本資料は内容解説資料として、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の教科書情報

詳しくはWebへ!

【特集】 スウェーデンの「共生の学び」に主体的・対話的で深い学びを見る

【連載】 Belief / 生活・総合への提言

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

理科 とつなぐ



2020年度版 生活科教科書下巻p.28

POINT

1. 「学習のめあて」で働かせたい「見方・考え方」を示した。
2. 子どもが「見方・考え方」を働かせて「思考・判断・表現」した例を「振り返り」で示した。
3. 「学習のめあて」は、資質・能力の育成を目指す指導の指針となる。

小林 辰至

上越教育大学名誉教授。1952年、岡山県生まれ。専門は理科教育学。タンポポを教材とした問題解決能力の育成に関する研究で、兵庫教育大学にて博士号（学校教育学）を取得。



新版
生活科
教科書
特集

生活科を

▶ みんななかよし

楽しくなければ始まらない。もはや「子どもたちの身体をお行儀よく揃えてから」という指導は通用しない。規律や自己統制など社会的な振るまいができることは重要である。しかし、身体全体を使って「みんなで楽しい」という感情が共有できる活動をしかけることから始まらなければならない。「みんなで楽しむ時間や場を大切にしたい」と感じさせて、「みんなの中の自分」を意識できるようにさせる。このことが規律や自己統制など社会的な振るまいを育てる筋道である。「みんなで楽しくて、みんなと心が一つになる」と感じる中で、子どもたちは互いを尊重し合うようになる。教師への信頼感も形成される。だから教師の願いや指導も子どもたちに通じるようになる。教師の専門性は「子どもたちの心が温かく揃う」ように育てることに示される。



藤井 千春

早稲田大学教育・総合科学学術院教授。博士（教育学）。1958年、千葉県生まれ。茨城大学助教授などを歴任。ジョン・デューイの哲学と教育学を研究。

POINT

1. 身体全体を使った楽しい活動をしかける。
2. 「みんなで楽しい」という気持ちを共有させる。
3. 楽しさを共有することで子どもたちの心が温かく揃う。



2020年度版 生活科教科書上巻p.7
「うたあそび」の写真のようにみんなで楽しむことから始めよう。

社会科 とつなぐ

生活&総合navi vol.76

日文教育資料[生活・総合]

令和元年(2019年)5月20日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261

※2020年度版小学校生活科内容解説資料として扱われます。
本書の無断転載・複製を禁じます。
Design: Kurahashi Junpei (KN.PLANNING)
CD33442

日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938
東海支社 〒461-0004 名古屋市中区葵1-13-18-7F・B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690



新しい生活科の教科書には、主体的に取り組む、対話に満ちた全国の子どもの実践写真が載っています。深い学びへの道筋や、学びと学びのつながりがわかる工夫がそこかしこにあります。低学年のこの時期に、子どもたちの「学びの芽」をしっかりと育て、他教科や、3年生以降のあらゆる学習活動、実生活で生かせる力を育む教科書です。

無理なく質の高い授業ができる教科書をつくりました

「ポイント解説」と「教科書をつくった現場の先生による座談会」でよくわかります！



ここが変わった！

← 2-3 みんなで「問い」がつくれて「評価」もできる教科書です

← 4-5 子どもの「学びの芽」をしっかりと育てる教科書です

← 6-13 [座談会] 生活科が10倍楽しくなる教科書



Belief

子どもとともに学び成長していく

タレント

中山 エミリ

Emiri Nakayama

1978年、神奈川県生まれ。1994年にデビューし、ドラマ・バラエティー・情報番組などに多数出演。2010年にプロライフセイバーの飯沼誠司と結婚し、2015年に長女を出産。現在でも、テレビ・ラジオなど幅広く活動中。

大事にしたい子どもの想い

「この瞬間は子どもにとって大切なのだ」「仕事に出掛けるときに、あいさつをしながらいつも思っています。」

子どもは常の上機嫌で見送ってくれるわけではありません。そんなときには私も切ない気持ちになります。幸いなことに我が家ではそれぞれの家族が近くに住んでいますので、親が仕事に出掛けるときが、子どもにとって「淋しい、イヤな瞬間」にはなっていない、という私の想いに応え、協力してもらっています。

「お留守番をさせてしまっている……」と考えるときもありますが、家

子どもが生まれて生活のすべてが変わった

族のおかげで子どもは「今日は大好きなおばあちゃんが遊びに来てくれる」「大好きなこと遊べる」時間だと思っていて、私の仕事の予定とは関係なく「次はいつかな」と楽しみにしています。最近では、母とのお留守番中に私の生放送と一緒に観て「ママのお仕事見てたよ」と言ってくれたりします。

日常的に子どものために使う時間はもちろんですが、こはペビーカーで行っても大丈夫なところかな？ とか、買い物のときは子ども用のトイレのある場所を選んだり、遠出になるときは途中、休憩できる場所がどこにあるか調べたり。電車を利用するときには、なるべく混んでいない時間帯を選ぶなど。「親御さんたちはこんなことやあんなことを気にかけていたんだな」と改めて気づき、学ぶことばかりです。

夫婦二人での生活では考えもしなかったことをあれこれ考え、どんなことや場所が子どもの成長につながるか、子どもが喜んでくれるか、子ども第一の考え方になるのが子育てなんだと実感しています。

成長とともに子どもの興味も広

がってきているので、一緒に映画を観に行ったり、海へ行ったり、稲刈など自然の中での体験をさせたり、と私たちがなりに幼児教育を実践しています。

これからも、様々な体験を通して貴重な成長の時間をともに過ごしていきたいです。

親として思うこと

将来、小学校に通うようになり多くの同年代の子どもたちと一緒に勉強するようになれば、どんなことに興味をひかれ、どのような目標をもつのか。どんな友人と出会えるのか。上手いかわいかなことがあったり、挫折を経験することもあるかもしれません。それでも、周りには一緒に悩み、ともに模索する家族がいて、成長できる仲間がいることを忘れずに、様々なことに挑戦していいと思います。

現在、私自身も、仕事や日々の生活の中で、たくさんの方々に支えていただいていると感じています。娘には、周りの方への感謝の気持ちを大切に人々に育ってもらいたいと願っています。

親としてはいろいろと考えてしまっていますが、今は、毎日モリモリ食べて、たくさん笑顔で元気に過ごしてもらいたい！これに尽きます(笑)。

子どもの主体的な
学びを促す工夫

安全・健康面での注意点を子ども自身が
“自分ごと”としてとらえられる構成

「安全」「安心」は、子どもたちの豊かな学習生活を支える「生活の基盤」です。だからこそ、日文生活科の教科書は、徹底的に安全、安心にこだわりました。

新版では、人的災害、自然災害、交通災害という従来の観点に加え、熱中症やアレルギー、危険な動植物への注意喚起など「**日常の安全確保**」も重視しています。

子どもにとって初めての学校生活となる1年時から、「繰り返し」「多角的に」「子どもが自分に引き寄せて考えられる」よう、安全や衛生、健康に関する注意事項が登場します。

スタートカリキュラムで【防災】【日常の安全】



2020年度版 生活科教科書上巻p.16-17
子どもたちが毎日を安全に過ごせるよう、4月に必ずおさえおきたい安全事項です。

巻末図鑑でいつでも確認【防災】【日常の安全】



2020年度版 生活科教科書上巻p.134-135
安全・健康に関する基本事項をまとめました。

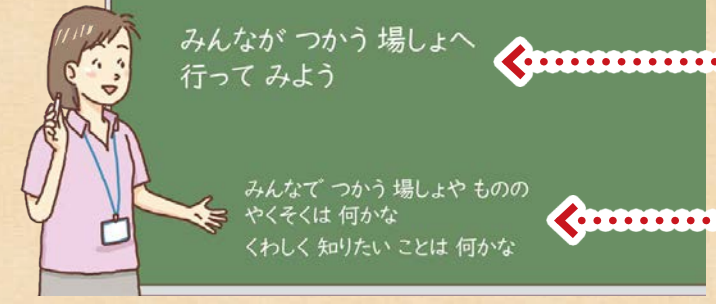
その他、場面に応じて子どもたちに語りかけるように注意を促す「キャラクター」、授業中に確認できる「側欄」や、ひと目で注意すべき点がかかる「アイコン」などを設置しています。



「問い」をつくるのは本来、教師の醍醐味だと思いますが、慣れていない先生や、時間がない場合などは、教科書にある「タイトル」や「めあて」をどんどん活用してください！

1 よい授業は**導入**から！！

「タイトル」と「めあて」を黒板に書き出すことで、教科書をもとにしてシンプルに実際の授業へ落とし込むことができます！



授業準備が効率化できて、
教師の負担も軽減できる！
それでいて授業の質が
担保できる！

めあてをもとにみんなで
考えたら、やってみたいこと
がたくさん出てきたよ！



下巻
p.14-17を
振り返る
場面を例に

使える「板書」と「学習場面」

子どもが主体的・対話的に考え、学習の見通しをもつことができる板書、グループワークや全体発表などの学習規律を、現場の先生と一っずつつくり込みました。



思考ツールとICT機器の活用例。子どもたちは、「こんなふうに思ったことを整理すればいいんだ」とわかる。イラストで「考えるための技法」を例示

発表している子に目線を合わせて話を聞く

発表内容に対して思ったことを話し合う

下巻p.18



先生も子どもたちも楽しく使える教科書って本当ですか？

みんなで「問い」がつくれて
「評価」もできる教科書です



「タイトル」
その授業で何をすべきかが端的にわかる

みんながつかう場しょへ行ってみよう
何が あるかな。

「子どもの思いや願い」
先生が子どもたちの気持ちを感じ取るためのヒントになる

「学習の展開」は
本冊子p.4-5で！

「学習のめあて」
育成すべき資質・能力の三つの柱に基づいた「めあて」を低学年の子どもたちにもわかりやすい言葉で示している

「学びのまど」
学習活動を振り返ったりつなげたりするコーナー

振り返り
本は 何さつあるかな。

2020年度版 生活科教科書下巻p.14-15

みんながつかう場しょや
ものについて考えてみよう
(例) 下巻 町たんけん1
みんなでつかう
場しょへ行こう

下巻p.12

みんながつかう場しょへ行ってみよう

下巻p.14

もう いちど 行ってみよう

下巻p.16

たんけんをふりかえろう

小单元ごとに1〜3個、
内容に合わせて表示

下巻p.18

「めあて」と「評価」がわかる

一つの単元を通すと必ず三つの柱が網羅され、単元ごとに繰り返し学べます。先生にはおさえるべきポイントが、子どもには「何をどう学ぶのか」がはっきりわかります。これらの「めあて」は活動の「評価規準」にもなります。先生の見取りはもちろん、子どもどうして評価したり、自己評価したりすることもできます。

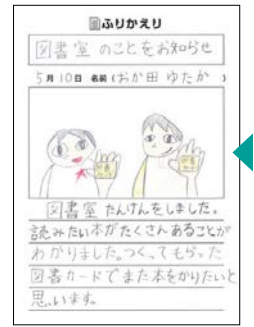
2 振り返りで
学びを深め、
次へつなげる

●やってみたいこと●
4月27日 町たんけん
わたしは虫が大好きなので
図書館で 虫の本をたくさん
かりたいです。

下巻p.13
みんなで話し合った後、次によって
みたいことをカードに書いている。

学びの連続性

小单元ごとに振り返りを大事にしました。学びを深め、定着させるだけでなく、次の課題を見つけたら、実生活や他教科等の学習へと関連させたりして、「次へつなげる」ことができる教科書です。



下巻p.17
わかったこと、次の課題を書いている（図書カードをつかったから、それを使って本を借りたい）。

下巻p.19
単元を終えて学びが深まり、次の活動への意欲がわいている（もっと他の場所も調べたい）
→下巻p.62からの「町たんけん2」へつなげる。



子どもの主体的な
学びを促す工夫

必要な知識及び技能、習慣が身に付く図鑑・資料
「ちえとわざのたからばこ」「ポケット図かん」

子どもの引き出しを増やすために、主体的に知識及び技能を身に付けることができる豊富な図鑑・資料を用意しました。野菜の栽培図鑑、おもちゃ図鑑など単元に深く関連する内容は、ポケット図鑑として各単元内に載せています。

巻末図鑑の「ちえとわざのたからばこ」には、考える技、観察の仕方、発表の仕方など、いつでもどこでも使える知識や知恵、技が身に付く「学び方図かん」と、安全、生活習慣、動植物図鑑をまとめた「しぜん・生活図かん」を収録しました。



2020年度版 生活科教科書上巻p.126-127
他教科でも役立つスキルが身に付きます。

学習しやすいフォントを採用

国語との関連から正しい字、文章の書き方が学べるよう、教科書体に準じたフォントを使用し、文頭は一字下げしています。また、学習カードや作品の手書きの文字には、ハネ・トメが正確なものを用いています。

植物の成長が見える「やまおり」加工

初めて使う教科書に親しみを感じられるよう、小さな「あそび要素」を取り入れています。上巻では数ページを「やまおり」することで、植物の成長過程が一覧できる立体のしかけ「栽培ごよみ」をつくりました。



教科書の軽量化

子どもの体への負担を考え、より軽い用紙を採用しました。これにより教科書の重量を現行教科書より15パーセントほど削減しました。

詳しくは日本文生活科の特設サイトへ！



「考えるための技法」の活用例を
学習活動にふんだんに取り入れています

新学習指導要領では、見つける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの「考えるための技法」の活用が求められています。本教科書では、その技法を活用した授業の展開例を「具体的に」「繰り返し」示しています。
子どもたちが身に付けたスキルは、他教科や3年生以降のあらゆる学習活動に役立てることができます。日文では、低学年のこの時期だからこそ、「学びの芽」をしっかりと育みたいと考えています。



作品例や学習カードは、全国各地の実践を徹底取材して集めた資料をベースに、教科書として必要な観点を盛り込み、つくり上げています。

「考えるための技法」の活用例

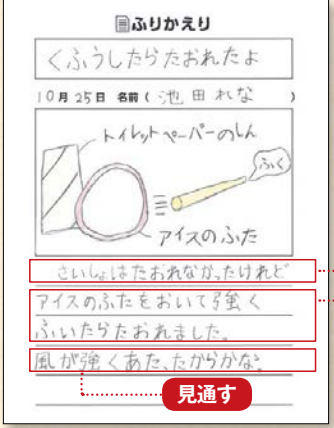
小単元の導入場面で…

	さくぶんし	はな	めだか	アゲハ	カタツムリ
入れるもの	土、石、かみは	土、草	水、水草、石	みかこのは	
えさ	かみは	草	金魚のえさ イトミミズ		
せわ	毎日 まじりこする	草をかえる くみまわす			

下巻p.50

飼育する生きものにとって、よい環境を「見つける」「比べる」

子どもたちの思考を可視化するのに有効なマトリックスを使って、生きものの飼育環境を考える場面。あえて空欄を残すことで子どもたちの気付き、それに対する教師の問いかけを促します。一人の気付きをみんなの気付きにしていきます。



下巻p.85

学習カードで…

「学習カード」においても「考えるための技法」の活用を促し、気付きのヒントを繰り返し提示することで、無理なく学びを深めます。

試す 工夫する

町探検の振り返りで、訪問先である図書室にお礼のメッセージを伝える学習活動。子どもたちが「心に残ったことは何か」「これからどうしていきたいのか」などを考えやすくする手立てとして例示しています。この作品例では、感謝の気持ちをもつだけでなく、相手意識と目的意識を明確にして、自分自身の活動を振り返るメッセージの例を豊富に紹介しています。

巻末図鑑で…

上・下巻の巻末図鑑「ちえとわざのたからばこ」で、「考えるための技法」のページを設けています。



下巻p.102



下巻p.71



上巻p.75



上巻p.40



上巻p.7

Q 気付きの質が高まる教科書って本当ですか？

子どもの「学びの芽」を
しっかり育てる教科書です

子どもも先生も学習活動をよりイメージしやすくなるよう、
実際の授業の写真で教科書を構成しました。
また、低学年の子どもたちでも活用できる思考ツールや発想法を取り入れて、
無理なく、主体的・対話的で深い学びにつなげる工夫をしています。

創意工夫と対話に
満ちた実践写真が
子どもの「知りたい!」
「やってみたい!」を
かき立てます

全国各地で学んでいるリアルな「友だち」の姿に、教科書を見る子どもたちは好奇心を刺激され、想像を巡らせていきます。そのことにより、気付きが具体的になり、学習活動の見通しをもつことができます。



上巻p.84



下巻p.19

教科書には、本当に楽しそうに活動する子どもたちの姿がたくさん載っています。写真について「どう思う?」となげかけるだけで授業が始められますよ。



生活科が10倍楽しくなる教科書

研究者の先生はもとより、現場の先生がこれまで以上に深く関わって、「誰でも使いやすい教科書」ができました。子どもが楽しく学べるのはもちろん、これから生活科を教える先生には「わかりやすく」、ベテランの先生には「より深く楽しい授業」に向けて、「めあて」から活動の流れ、次の学習とのつながりまで、授業づくりのヒントが満載の座談会です！

写真やイラストを通して、学習のつながりや、考えるための技法を明示

山中 今回の「新版生活科教科書（以下、教科書）」をつくるとき、私たち制作に関わった教員が真っ先に考えたのは、「先生も子どもも、楽しく使える教科書にしよう」ということでしたよね。その思いが随所に生きた教科書になったと、私は思います。

たとえば写真。この教科書に掲載したのは、本当の実践のなかで撮った写真ばかり。だからどれも、すごくリアルですね。子どもたちが見ればきつと、「わたしたちも、こんなやつてみたい！」って思うだろうし、「よし、自分たちはこの写真の子たちの上をいってやるう！」と挑戦してくれば、教科書をつくった立場としては、もううれしいですね。私はこの教科書が、そんな存在になるというなと思っています。

石堂 たしかに写真へのこだわり

山中 昭岳 Yamanama Akitaka

さとえ学園小学校 教諭

【なぜ、小学校の先生に?】

給食、遠足、修学旅行。楽しく、変化いっぱい毎日が過ごせ、誰よりも一番近くで子どもたちの成長する姿をみることができるから。

my belief

教師自身が一番の学び手であれ!!

小笠原 さちえ Ogasawara Sachie

東京都大田区立久原小学校 主任教諭

【なぜ、小学校の先生に?】

小学校の卒業文集に「幼稚園の先生になりたい」と書いたと思います。幼稚園教諭として10年間勤務した後、「幅広く子どもたちと関わることができる人になりたい」と思い、現在の道に至りました。

my belief

「笑う門には福来る」

「笑顔がいっぱいの教室にも福がたくさん訪れる!」と信じています。

八木 美香 Yagi Mika

東京都港区立芝浦小学校 主任教諭

【なぜ、小学校の先生に?】

元々はピアノの勉強をしていました。子どもたちと歌ったり、踊ったりすることが大好き。体を動かすことが大好き。お出かけすることが大好き。工作することも大好き。子ども一人ひとりの「楽しい♪」の表情が何より大好き。

my belief

「楽しい♪」の中に学びあり。



2020年度版 生活科教科書下巻p.31

石堂 裕 Ishidou Hiroshi

兵庫県たつの市立新宮小学校 主幹教諭

【なぜ、小学校の先生に?】

身近な家族が教員だったため、小学生のころから「先生になる」と決めていました。小学校に決めたのは、教育実習での1年生との出会いです。授業の難しさを実感して、「もっと究めたい」と思ったことが、今も私自身を支えています。

my belief

「ピンチがチャンス!」

授業では、「ま（待つ）つ（つなげる）の（のせる）き（気付かせる）みと（認める）」。



このマークがあるページで、それぞれの先生が動画メッセージを発信しています。（本マークは小笠原先生です）



2020年度版 生活科教科書下巻p.17

子どもたちへの学びのヒント、先生への授業づくりの
ヒントについてふんだんな仕掛けが散りばめられている。

も動きも、まるで違っんです。実践写真は、子どもたちの真剣なまなざしや素直な表情がたくさんです。しかし、モデル写真は、演出が入っているのがわかるんですよ。見比べてみて、明らかな違いを感じました。

石堂 はい、だからこの教科書を使う子どもたちは、写真の中の友だちと、同化していく。そしてそういう気持ちになると、自然と活動がイメージしやすくなるんじゃないかな。

八木 私は下巻で扱う「町たんけん」の写真選びをしたんですけど、とにかくいっぱい写真があつて、もう大変(笑)。下巻17ページには、街の図書室を訪ねた子どもたちが、司書の先生から「おはなし会」の説明を聞いている写真があります。この先生がとても表情豊かに話される方だったので、あがつてきた写真も一つひとつ表情が違うんです。そのなかから、「どんな話を

みんなの意見がだいぶその黒板に、書き出されているのがわかります。これを見た子どもたちは、「こんなふうに、思ったことを整理すればいいんだ」とわかるでしょう。つまりイラスト自体が、考えるための技法をちゃんと見せてくれている。

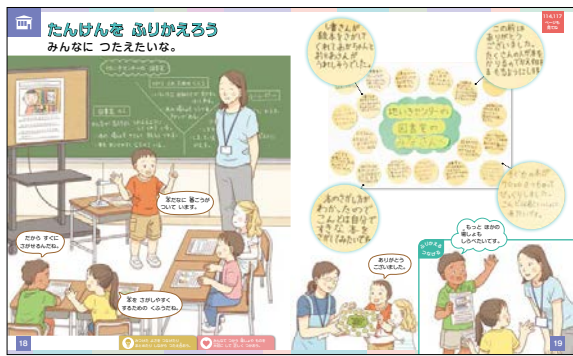
「考えなさい」と言うだけでは、子どもは何をどうすればいいかわかりません。考えるためのスキルを小さい頃から教えることは、生

活科では非常に大事です。石堂先生も「考えるための技法を学習活動に取り入れる」という文章を「生き生きついーくる」(14ページ参照)に書いておられますけど、こういう具体的な技法を教えることが、まず生活科で標準になり、さらに他の教科でも応用できるようになったらいなと思います。

教師のための、授業づくりのヒントを満載

八木 私は、イラストが載っているページは、先生のためのページだと思っんです。「授業をつくっていく上では、こういう板書が必要なんだよ」って、多くの先生に理解してもらうためには、すごく役立つと思うんです。

山中 そうですね。先生の役割と



2020年度版 生活科教科書下巻p.18-19



2020年度版 生活科教科書上巻p.84

石堂 それにこういう活動は、幼稚園や保育所、こども園でもよく取り入れているから、子どもが過去の体験を思い出すきっかけになります。子どもたちから、「あつ、これやったことある！」なんて言葉が飛び出してくると、まだ経験の少ない先生も、「なるほど」と、授業をつないでいきます。この教科書は、そのあたりもよく意識して、先生をサポートするようにつくられている。だから子どもの「つばやき」も拾いやすいと思います。

小笠原 子どもたちが思いや願いをもつことができるような環境づくりは、私自身、日頃から大切にしています。「あきのものでつくってあそぼ」の活動をするとき、拾ってきた木の実や葉っぱですぐオモチャをつくるのではなく、みんな

で何日もかけて、少しずつ秋のものを集めてみるのいいと思います。するとやがて、「うわあ、こんなにいっぱいになったよ！これで遊びたい！」という声が、子どもたちから飛び出してくる。そして素材で遊んでいるうちに、そこから何かをつくったり、あれこれ工夫したりするようになっていきます。そういう流れをつくるために環境を変えていくことが重要だと思っています。

石堂 そういふ点でも、この教科書には、子どもたちへの学びのヒント、先生への授業づくりのヒント、

その両方についてふんだんな仕掛けが散りばめられていますよね。

一つは写真やイラストの「吹き出し」ですね。「あきのものでつくってあそぼ」では、いろいろな形のドングリごまで、子どもたちが遊んでいる写真が使われています。その中の子どもの一人に、「まわりかたがちがうね」と書いた吹き出しがついている。これが「つばやき」です。

この吹き出しを読んだ子どもたちは、「ドングリによって、まわりかたがちがうらしいよ。本当かな？」と考えたり、自分でやって試してみよう、丸いドングリと細長いドングリで、回り方を比べてみよう、思ったりする。試す、比較するというのは、考えるための技法です。教科書でも、ドングリごまの回り方の違いに気付いたところで、別のイラストが「いろ

いろな形や大きさを試してみよう」となげかけています。吹き出しが、次の学習へのヒントになっているんです。

だから先生たちは、そういう子どもの反応を見逃さないよう、ぜひ吹き出しにも注目してほしい。経験が少ない先生でも、吹き出しを注意して見ていくと、「そうか、子どものこういうつばやきを拾えばいいんだ」とか、「ここで提示されているのは、考えるための技法だな」とか、簡単に気付けると思います。

八木 この小単元に出てくる最初の写真、上巻の84ページですが、ここで子どもたちは、ドングリだの葉っぱだの、まだオモチャになっていない。材料、そのもので遊んでいます。子どもって、ここから遊びを始めるんです。若い先生たちは、自分たちも生活科を経験して育って来ますが、聞いてみると、オモチャをつくったことは覚えていても、材料で遊んだことは覚えていません。若い先生にもベテランの先生にも、「子どもの遊びは、材料に触れるところから始まっている」と思い出してもらうために、とても参考になるページだと思っています。

石堂 この小単元を編集するにあたって、私たちみんなが非常に意識したのは、「動き」なんです。子どもたちは、転がす、回す、手に持って振るといった動きに注目

するだろう。そこに「もつとー」につながるヒントを付け加えると、さらに工夫やこだわりが出てくるんじゃないかと考えた。そうしたヒントを、吹き出しやイラストを使って、読み取りやすいようにしたつもりです。

誰にでも一目でわかる、「めあて」と「評価」のポイント

小笠原 何をつくるかより、私は子どもたちに、遊びの中でいろいろなことに気付いてほしいと思います。そのために、子どもたちが様々なことに気付くことができるような環境を教師がつくるのが大切ですよ。

山中 生活科のものづくりの特徴は、それが生活につながっていることです。オモチャをつくって、それを使って実際に遊ぶことができます。

小笠原 作品の出来栄ではないですよ。その子がどんなことを試して、工夫してつくったかという、でき上がるまでのプロセスもすべて含めて評価する。

山中 じゃあそれをどう見取るか、どう評価するか。先生としてそれなりの経験があれば、感覚的にわかるけれど、若い先生たちのために、この教科書には「見取り」のヒントを、できるだけ盛り込みたいと思っていました。写真やイラストを使って、子どもたちの「つばやき」をたくさん載せたのも、

そういう意図からです。

小笠原 「振り返り」にも重きを置きましたよね。そこから次へつなげていけるように。

山中 どのページでも、「めあて」と「評価」がちゃんとわかるようになっていきます。評価で不可欠なのはゴール設定ですから、この学習は何のためにするのかを、最初に子どもたちと一緒に、明確にしておくことが大事です。そのために、各小単元のタイトルが書かれたページには見開き左下の部分に「学習のめあて」欄を置きました。そしてそこに、育成すべき資質・能力の「三つの柱」に基づいた「学習のめあて」を、低学年の子どもにもわかりやすい言葉で示しました。具体的にいうと、それぞれの小単元について、「こんなことが知りたいな。どんなことができる



教科書をつくるにあたって、私は振り返りから次の学習活動への流れを意識しました。(小笠原さちえ)



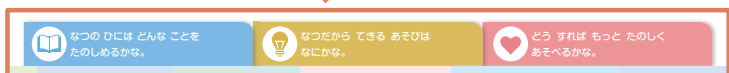
板書例などのイラストが載っているページは、先生のためのページだと思ったんですよ。(八木美香)

かな?」💡「これを伝えたいな」
♥「もっとやってみよう」という
三つのポイントを、子どもにも理
解しやすいよう、アイコン付きで
載せたわけだ。
小単元の最初で、この「学習の
めあて」を見ておくと、先生には
その小単元でおさえるべきポイン
トが、子どもたちには、その小単
元で「何をどう学ぶのか」が、はっ
きりわかると思います。これらの
「めあて」は、活動の「評価」に
もつながるので、活動をやり終え
たあとで、また確認してもいいで
すね。個人的には、先生が評価す
るためというより、子どもどうし
の評価、あるいは子ども自身が自
らの成長を評価するために、使っ

てもらえたらと思っています。
小笠原 現場の先生たちみんな「学
習のめあて」を、**子どもの言葉**で
伝えたいというところで考えが一致
しました。例をあげると、上巻60
ページ「なつをもっとたのしもう」
の小単元は、📖「なつのひには、
どんなことをたのしめるかな」、
💡「なつだからできるあそびは
なにかな」、♥「どうすればもっ
とたのしくあそべるか
な」の三つが、「学習
のめあて」です。
山中 自校の先生たち
が授業を参観に来たと
きにも、めあてとルー
ブリックの応用は、必
ず見せています。先生



2020年度版 生活科教科書上巻p.60



にも子どもにも、わかりやすい評
価の規準になりますからね。とは
いえ、ルーブリックをつくるのは
なかなか難しいので、この教科書
では、「学習のめあて」をどんど
ん活用してもらいたいと思います。
**子どもたちは学び方を学び、
先生の負担は軽減する**
石堂 ところで、授業づくりで「
難しいのは「問い」のつくり
方ですよ。若い先生が一番困る
のもこの部分です。そこで下巻
58・59ページを見てください。見
開き左上、「生きもののひみつを
つたえよう」とありますが、この
タイトルは、本時で何をすべきか
が端的にわかるようになっています。
それからタイトルのすぐ下には、
黒い大きな文字で、「子どもの思
いや願い」が必ず書いてあります。
ここでは「わかりやすくつたえたい
な」とあるのがそれですね。こ
の部分、先生が子どもたちの気
持ちを感じ取るための、ヒントに
もなると思います。これに「学習
のめあて」を加えて授業の構成を
考えていくと、授業準備を効率化
して、先生の負担も軽減できるし、
なおかつ授業の質も担保できます。
山中 黒板にその小単元のタイ

授業準備を効率化して、先生の負担を軽減し、
なおかつ授業の質も担保できる。

ル」その時間にあること、ここ
では「生きもののひみつをつたえ
よう」を書き出し、ルーブリックと
して、見開き左下の「学習のめあ
て」にある言葉を、書き出すこと
ができます。教科書をもとに、す
ごくシンプルに、実際の授業への
落とし込みができるんです。
「問い」をつくるのは教師の醍
醐味で、本来楽しいものですが、
あまり慣れない先生や、ペテ
ランの先生でも時間がない場合は、
我々が苦労してつくった(笑)「学
習のめあて」を、どんな活用し
てもらいたいと思います。それだ
けで、何をするのか、何を身に付
けるのかが明確な授業ができますね。
「めあて」をもとに話し合うと、
課題も子どもたちから出てくる
ようになるんですよ。今日は
何する?」と聞くだけで、あれを
やろう、これをやろう、この前は
こうだったから、今日はこうして
みようって、どんどんアイディア
が出てくるんです。
この教科書で、**子どもたちに「問
い」をつくる技術を学んでもらえ
れば、それは総合力につながって
いきます。「いかに教師が課題を
設定できるか」から、「教師が設
定しているように見えながら、い
かに子どもたち自身の発想を、課
題に取り込んでいけるか」へと変
わっていく。それを生活科から実
現できるのです。**

たことは、次に算数でも、国語でも
できるようになっていきますよ
ね。低学年ほど、活動の楽しさが
学びにとつて絶対的に必要だから、
生活科から始めたほうが、できる
ことがスムーズに増えていく。そ
ういう子が3年生になると、総合
的な学習の時間がスタートしても、
確実に学習を自分のものにしてい
けます。
山中 そういう意味ではこの教科
書って、「学び方を学ぶ教科書」
でもあるんですよ。
**振り返りから次の学びへ。
学習の流れをつくるということ**
小笠原 教科書をつくるにあたっ
て、私は振り返りから次の学習活



動への流れを意識しました。「子
どもがこういう振り返りをした
ら、きつと次にこう言うと思う」とい
う流れです。子どもの姿を思い浮
かべながら、そこが自然な流れと
してつながっていくように、配慮
しました。
石堂 場面構成のなかで、どう次
へつないでいくのかも、ずっと考
え続けましたよね。基本は生活科
にある「**学びの連続性**」。これは
総合的な学習の時間にも、他の教
科にもつながっていきます。学
びがずっとつながっていくことが、
子どもたちにも先生にも、確実に
イメージできる教科書を目指した
わけです。



2020年度版 生活科教科書下巻p.58



2020年度版 生活科教科書下巻p.14-15

る」にあるように、一人ひと
りが気付いたり、思ったりした、断
片は、教室で発表して黒板に書
き出すことで可視化され、みんな
に共有、されていくのです。
そして、そこでもまだ終わらな
いのが、この教科書のおもしろい
ところで、下巻20・21ページの「ポ
ケット図かん」という見開きコー
ナーで、「町のこと もっと知りた
いね」として、町にはもっともっ
といろんな施設があると紹介し、
さらなる学習を促しているんです。
八木 下巻99ページも、そのいい
例です。「あそび名人になろう」
という単元の最後のページなのに、
右下にある「ふりかえる つなげる」
の欄では、自分がつくったオモチャ

がつかう場所へ行ってみよう」と
いう小単元です。生活科では、地
域のいろいろな場所へ施設訪問を
しますが、あらかじめ用意した「問
い」とは別に、その場へ行ったこ
とで生まれる気付きもたくさんあ
ります。15ページでは、図書室を
訪問し、たくさんの本がぎっしり
棚に並んでいるのを見た子どもが
「(図書室に) 本は何さつあるのか
な」と振り返る。そして次のペー
ジをパツとめると、次の小単元が
「もういちど行ってみよう」と呼
びかけてくる。気付きや疑問から
次の活動が始まっていくのです。
小笠原 そして「もういちど行っ
てみよう」では、今度は図書室で
働く人との関わりが出てきます。

私の学校でも、最初の訪問では、
そこに置いてあるものへの気付き
が多かった。でも、「もういちど行っ
てみよう」で再訪問すると、この
図書室にはこんなにすてきな人が
いるんだと、関心が、人へへと広
がってきました。そういう流れも、
今回の教科書では上手におさえら
れたと思います。
石堂 見学に行ったあと、一人ひ
とり感想を書くじゃないですか。
その一人ひとりの振り返りが、み
んなの気付きになっていくという
流れもありますよ。「みんなが
つかう場所へ行ってみよう」、「もう
いちど行ってみよう」と学びを重
ねて、次に来る「たんけんをふり
かえろう」(下巻18・19ページ)に、

それがよく表れています。これは
たまたま冒頭でも触れた、板書の
イラストが掲載されているページ
ですが、一人ひとりの気付きを、
黒板のYチャートに分類しなが
らまとめることで、みんなの気付
きに変えていく授業の様子が描か
れています。シンプルだけれど、
とても重要な流れです。
山中 今回の教科書では、見開き
ページの右下に、随所で「ふりか
えり」カードを載せて課題を示し、
そこから次の学習につながる流れを
つくるようにしましたよね。「ふ
りかえり」カードは、教科書のな
かの子どもたちが、活動を振り返
りて書いたカードなので、それ
を見て自分たちもその小単元の振

り返りができます。
もう一つ、同じく見開きペー
ジの右下に載っている「**学びのまど**
」コーナーは「ふりかえる つなげる」
と書いてある通りで、イラストと
吹き出しを使って、活動から次の
課題をすくい上げたり、実生活に
つなげたりするためのヒントを紹
介しています。
石堂 学習で大切なのは、学びを
つなげていくことに加えて、主観
をどう客観に変えていくか、いか
に一人の気付きをみんなに広げて
いくかです。最初は教師の手立て
が必要です。図書室を訪問して、
子ども一人ひとり思ったことは、
断片的で、まだ共有化されていま
せん。でも「たんけんをふりかえ



「学習のめあて」「や具体的な学び方は、教科書できちんとおさえてある。」

を手にした子どもが、「いっしょにあそぼう」と弟を誘っています。つくただけで終わりではない、まだまだ続きがあるよ、ということですね。

生活科は「生活」と結びつき、3年生以降の学習にもつながる

小笠原 生活科では、生活を楽しむ豊かにしていくことが大切です。だから山中先生がおっしゃったように、自分自身の生活に生かすことを、かなり意識したつもりになっています。

石堂 生活科の最大の目的は、生活者を育てることなんです。だからこそ、教室外への広がりを意識することがすごく大切です。先ほど「町たんけん」の活動の話が出ましたが、3年生の最初でも町たんけんがあるでしょ。「あ、2年生の時、ここ見たよ！」という気持ちから、3年生でもその先の学習（社会科）にすんなり入っていく。そういったつながりの一助にも、生活科はなっていると思いますね。

山中 段階的な学びということでは、下巻で取り組む「町たんけん」の活動を、「町たんけん1」、「町たんけん2」と、2回に分けて掲

載しています。下巻10ページから始まる「町たんけん1」では、公共施設にクラス全員で行き、町たんけんのノウハウを学ぶ。そして62ページからの「町たんけん2」では、今度はグループ単位で、町のいろんなところを訪ねてみる。その経験は、社会科にもつながっていくことができるわけです。そのための手立ても埋め込んだし、ワークシートも真似して書けるようになっていて。だからとにかくこの教科書に沿って、ぜひやってみてくださいと、私は言いたい（笑）。

石堂 新しい学習指導要領と教科書の関係がクローズアップされた時、教科書「を」教えるんじゃないって、教科書「で」教えるようにと、すごく強調されましたよね。まさに山中先生が今、指摘されたことです。私たちのこの教科書は、探究の「プロセス」を伝えているんです。計画を立てて、実際に町たんけんに行ってみる。課題を見つけたら、もう一度行ってみる。その流れをはっきり見せることができたのは、とても効果的でした。

八木 若い先生たちが、この教科書の使い方を勉強することで、ほかの教科でも、教科書のとらえ方が理解しやすくなるかもしれませんね。

自分の学校に合った形で教科書を使う

八木 ちよつと「町たんけん」に戻ると、2回に分けて取り上げた1回目は、訪問先が図書室で、2回目は町のいろいろなお店へのグループ訪問でしょ？ 自分でもやってみて思ったけれど、まず公共施設、それから一般のお店という流れだと、子どもたちにも、それから先生たちにとっても、ハードルが低いのです。でき上がった教科書を見ながら、改めて本当にその通りだったなと思っています。

石堂 「町たんけん1」で、みんなが出かけると、この学習プロセスはこうやって動いていくんだとわかります。その後の「町たんけん2」では、グループ単位で出かけます。1と2に期間を置いて実施するようになっていて、1学期の「町たんけん1」と比べて、2学期の11月を過ぎる頃に行う「町たんけん2」では、子どもたちの思考レベルが目に見えて成長しています。ワークシートの文字量も増えるし、他の子どもの発言に同調したり、共感したりもするようになりますからね。

山中 こうした活動は、それぞれの学校の実態に応じて、できる範囲で行えばいいと思うんですよ。この教科書は、多様性を受け入れる教科書ですから。

八木 うちの学校があるのは都心

ているんです。上巻56ページというの、1年生のまだ比較的早い段階で学ぶ単元なので、発達年齢を考え、幼稚園や保育所、こども園で馴染みのある絵やカードで、動植物などをグループ分けしているのも見て取れますね。

いっぽう、下巻50ページを見てください。2年生の7月くらいで学ぶこの単元には、情報をマトリックスで分類した板書が掲載されています。1年生の頃と比べると、ずいぶん進歩しました。

山中 マトリックスは、子どもたちの思考を可視化するための、優れたツールです。低学年の子どもたちでは、とすれば発言が空中戦のようになって、何を言っているのかわからなくなります。このページの板書は、子どもたちの思考を、子どもたち自身がかきこんでわかるようにするための参考として、ぜひ教室で応用してほしいと

思います。

小笠原 おもしろいことに、この下巻50ページのマトリックス、全部の項目が埋まっているわけではないんです。ここは「生きもののせわを考えよう」という小単元で、板書のマトリックスは、横軸がいろいろな生き物の名前を個別に書いた「列」、縦軸は、それぞれの生き物の飼育に必要な、容器に入れるもの、エサ、世話をするポイントを示す「行」で構成されています。でも一部のマスにしか書き込みがされていないので、メダカの世話のポイントや、アゲハチョウの餌が何かなど、空欄部分は子どもたちが考えていくことができるんですよ。

石堂 完成したマトリックスではなく、空欄がある状態で途中経過を見せたのがミソですよ。授業の雰囲気リアルに伝わるし、子どもたちはきっと、「あれ？ここが抜けてるよ」と、目ざとく



2020年度版 生活科教科書上巻p.74

教科書づくりにおいては、著者陣が膨大な写真点数の中からその授業、その場面に最適な一枚を選び出す作業を繰り返した。「子どもたちにどうしても伝えたいものがある。だから徹底的にこだわった」と振り返る。



で、教科書に出てくるような自然環境にはないんです。ドングリを探すにも、わざわざ電車に乗って探しに出かけるしかない。でも、授業の組み立てや、その授業で何を指すのか、子どもたちにどんな力をつけたいのか、何を評価するのかなどがわかっていれば、ドングリにこだわる必要はありません。自分の地域、自分の学校でできることで、応用すればいいのです。

山中 上巻の74ページから始まる、「きせつとあそぼう」の秋の単元を見てください。この単元は、「きのう、お月見をしたよ」、「なつとはちがう虫のこえがしたよ」といった、子どもたちのつぶやきからスタートしています。これは、「自分のクラスの子どもたちのつぶやきから、課題をつくっていいはいんだよ」という、先生に対するヒントです。

ドングリや大きな葉っぱが身近になくても、「学習のめあて」や具

見つけますよ。そこで先生が、「本当だ、みんなはここに何が入ると思う？」と問いかけることで、学習が深まっています。

小笠原 「振り返りから次の学びへ」の話題として上がりましたが、「町たんけん」（下巻18・19ページ）でも、図書室訪問の活動後に、みんなの意見をまとめた板書が活躍しましたよね。一人ひとりの気持ちを発表させながら、これは図書室の人のことだね、これは使う人のための工夫だね、これはルールやマナーのことだねと、三つに分けて、Yチャートにまとめたところを載せています。

八木 今回の教科書は、板書の扱い方が総じてとてもよかったです。他にもカードやツールを使っていたり、掲示物が載っていたりしますから、こういったいろいろな工夫が必要なんだという認識を、若い先生たちももってくれるのではないのでしょうか。

「生活科って、こんなに楽しい！」を伝える教科書に

山中 この教科書には、宝物がいっぱい隠れています。どうか宝探しのように使ってください。

八木 この教科書、使ってみてね！絶対にいい授業がつくれるよ。

そう言って歩きたい気分です（笑）
石堂 1年のとき葉っぱのお面で遊んだ子が、2年生でも葉っぱのお面をつくっている。子どもは、

過去の学びを覚えているんです。教師はそこにも気付いてあげたいですよ。この教科書に載っている写真のような場面を、自分の教室でも見かけたら、すかさず子どもをほめてあげてください。

小笠原 子どもたちがこの教科書を見ると、「こんなこともできるし、あんなこともできるんだ。私もやってみよう、ぼくならこうする」と思ってくれるでしょう。「子どもたちのこういう表情をたくさん見たい」と先生たちが思えるような、そういう写真や活動がたくさん載っています。先生にも子どもたちにも、「生活科ってこんなに楽しいんだ！」と感じてもらえる、この教科書がそのきっかけになることを願っています。

文・田中洋子
撮影・綿貫淳弥

Next Page 生き活きういーくる

<https://www.nichibun-seikatsu.net/>

「生き活きういーくる」は、座談会に登場した4人の先生が生活科や学級経営などについてつづるブログです。次のページでは生活科の授業に役立つ各種コンテンツを紹介しています。ぜひご覧ください。

登録はこちら！



生活科LINE@
お役立ち情報をお届けします！

新版生活科教科書「わたしと せいかつ」のご案内

<https://www.nichibun-g.co.jp/2020/seikatsu/textbook/>

教科書をより活用するためのポイントを著者が動画で解説！

必見! よくわかる 内容解説動画

教科書づくりに関わった実績豊かな研究者、日々、子どもたちと接している現場の教師が「本当に使える教科書」のポイントを具体的に解説します。

●教科書案内のWebサイト内のメニュー「動画解説・資料」から閲覧できます。

直接見るには
こちらから



関西大学 黒上晴夫
「教科書に資質・能力の柱を示した価値」



神奈川県横浜市立戸部小学校
主幹教諭 鈴木紀知
「教科書に示した三つの柱がどう役にたつのか」

新版生活科教科書の魅力を詳しく紹介！

生活科教科書をもっと知ろう！

新版教科書の詳しい解説と、編集上の特色・工夫をわかりやすく発信しています。

「内容解説資料」や「編修趣意書」などのデータをダウンロードすることもできます。

教科書案内Webサイトは
こちらから



Webを活用すれば生活科はもっと楽しくなる

-2020年度へつなぐ-
小学校教科Web

特設
サイト

生活

-せいかつ-

日本文教 2020 生活 検索

先生方の日頃の疑問やお悩みを、
学級経営や教科学習に精通した先生と一緒に考えています。

生活科Q&A

<https://www.nichibun-g.co.jp/2020/seikatsu/faq/>

質問は随時、受付中です。お気軽にご利用ください。

【質問投稿フォーム】https://www.nichibun-g.co.jp/2020/faq_form/

例えば… Q 町探検など、地域から学ぶ単元がありますが、私の街には適した商店街がなく、自然観察ができるような自然がありません。そういった地域ではどのように学習を進めていったらいいのでしょうか。

2018.11.26 / 季節のフィールドワーク、町探検、日常生活・地域／家庭とのつながり
回答者：大阪府摂津市立鳥飼小学校 教頭 三好達也

A 町探検には「何を」しにいくのでしょうか。まず、目的は何かということから考えてみてはどうでしょう。例えば「内容(3) 地域と生活」について学習する場合はどうでしょう。商店街がなくても地域の施設やスーパー、工場などでも学習活動を行うことができるのではないのでしょうか。他にも……(後略)

サイトでは生活科にかぎらず、
いろいろなご相談をいた
いております。



生活科のサイトにはコンテンツが盛りだくさん。生活科のことだけではなく、先生方の日頃の疑問やお悩みにも、学級経営や教科学習に精通した先生がお答えします。LINE @で最新情報をお届け中！ 生活科サイトをどんどん活用して生活科をもっと楽しもう。

明日からの授業や学級経営などに活かせるヒントや手立てが満載です。随時更新中！

「生き生きうーくる」

<https://www.nichibun-seikatsu.net/>

生活科の実践だけでなく

- 日常あるある(学校生活や学級経営に関する内容)
- 他教科に関する内容
- 給食の話なども…!?

「生き生きうーくる」は、小学校の現場でご活躍の先生方によるリレー連載です。「うーくる」は、「Weekly(毎週更新)」と「私たちが集う(We 来る)場」の二つの意味をもった造語です。「育成すべき資質・能力にはたらきかける手立てとは?」「深い学びってどういうことだろう?」「子どもの「つぶやき」から見てきた授業で本当に必要なこととは?」トップランナーの先生方が、ご自身の実践から、その答えに迫っていきます。

例えば… 考えるための技法(思考スキル)を学習活動に効果的に取り入れることで

兵庫県たつの市立新宮小学校 主幹教諭 石堂裕

前は「ものづくりには、素材へのこだわりが大切であること」についてお話ししました。今回は「動く車」になるまでの過程のうち、山中昭岳先生も大切にされている「考えるための技法(思考スキル)」に注目した効果を紹介したいと思います……(後略)

その他、
●機関誌、単元本などの新刊情報
●文部科学省情報
など様々なお役立ち情報を掲載しています！

座談会(p.6-13)に
登場した先生方が
連載中!



石堂裕



小笠原さちえ



八木美香



山中昭岳

CHECK 生活科の最新情報が届く！

LINE@ 友達募集中!!
[IDで検索] @cgb2851p



日本文教生活科のLINE@では、生活科を中心に、小学校の先生方のリレー連載「生き生きうーくる」や生活科Q&A、特設サイトの更新情報や最新情報を配信中です。友達登録をして生活科の情報をいち早くチェック!

Active learning class

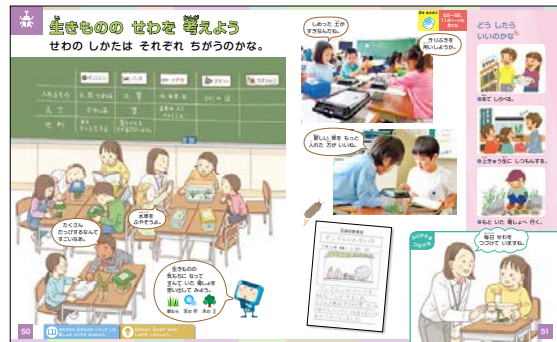
野口先生のアクティブ・ラーニング教室



野口 徹

山形大学教授。専門は生活科・総合的な学習。著書に『子どものくらしを支える教師と子どもの関係づくり』（ぎょうせい、共編著）など。

教科書にある「深い学び」の姿



2020年度版 生活科教科書下巻p.50-51

に思っていたけれど、今日の授業でそれが変わってきちゃった」というつぶやきが生まれてくるような、世界の見え方が変化する実感が伴うことが大切になってくるのです。

その具体的な例を生活科の授業の場面から考えてみましょう。日本文教出版の『わたしとせいかつ』下巻50-51ページの様子です。この単元では、子どもが身近な場所にいる「生きもの」の世話をすることを中心に進んでいます。「ダンゴムシ」「バッタ」「メダカ」などの世話をしていることがわかります。身近な生きものですから子どもも少しは知識をもっていることでしょう。しかし、ここで大事になるのは、生きものと子どもとの距離が近くなる場面を設定することと、そこから様々な気づきを導き出すこと。そして、その気づきを言葉に置き換えて思考を深めていくことです。板書を見ると、この教師は生きものに関する子どもの気づきの言葉を書き記しながら、「入れるもの」「えさ」「せわ」などの共通事項を縦軸に据えていくことで、子どもが異なる生きものの情報であっても共有して考えることができるような手立てを施していることがわかります。そして、こういった活動を通して新たな知識が教室内のいろいろな場所で生まれていきます。ふりかえりのカードでは、「ダンゴムシ」のえさの知識（「かれはだけ」）が、「キャベツやチーズも食べる」と更新されて、「びっくりしました」と記されています。これこそが「知っているはず」だと思っていた身近な生きものの知識が、他の知識と結びついて活性化していくつぶやきです。まさに、「子ども」が「知識を相互に関連付けてより深く理解する」ことに到達している、「深い学び」となっている子どもの姿がこれなのです。

こんな姿をさらに求めていくためにも、各学校では一層丁寧な授業研究を進めていくことがこれからも必要になっていきます。

主体的な学び	学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる
対話的な学び	子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める
深い学び	習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

これらの中で、「主体的な学び」「対話的な学び」が子どもの姿として表れやすく、見取りやすいものであることに比して、「深い学び」については、子どもの学習の「質」に関することとなりますから、子どもの姿を綿密にとらえていくことがより重要となってきます。それでは、「深い学び」となる子どもの姿を求めていくには、どのように考えたらよいのでしょうか。

そんな問いのヒントを探るためにも、上の「深い学び」の文章中に示された子どもの学びの姿、特に、「知識を相互に関連付けてより深く理解する」ことに注目してみたいと思います。

学校生活では様々な知識を子どもに与えます。これらを子どもが関連付けて理解するのです。さらにそれまでの知識が相互に活性化して「そうか！こういうことだったんだ」と納得へと至る深い理解なのです。しかし、これは「子ども」が「知識を相互に関連付けてより深く理解する」のであり、どんなに「教師」が熱弁をふるったとしてもそのようなとは限りません。ここには、子どもが既にもっていた様々な知識と、授業で学んだ新たな知識とが結びついていく瞬間が存在しているのであり、この結びつきによって「今まではこんなふう

Curriculum management seminar

村川先生のカリキュラム・マネジメントゼミ



村川 雅弘

甲南女子大学教授、鳴門教育大学名誉教授・客員教授。専門は教育工学、カリキュラム開発、生活科・総合的な学習。近著に『ワークショップ型教員研修 はじめの一步』（教育開発研究所）がある。

スタートカリキュラムの見直し・改善を通してカリキュラム・マネジメントを理解する

本誌『生活＆総合navi』（vol.72～vol.75）の本連載及び『サクサクできる！パズル型スタートカリキュラム作成支援ツール サクスタ2』（日本文教出版）の中でも述べてきたが、今次学習指導要領改訂の、育成を目指す資質・能力の三つの柱、資質・能力を育むための主体的・対話的で深い学びによる保育や授業の工夫・改善、それらを家庭や地域と連携・協力も図りながら協働的に実現するためのカリキュラム・マネジメント（以降、「カリマネ」）の考え方は、幼児教育から、小学校、中学校、高等学校までの教育を貫くものである。

本誌が読者の手元に届く5月は、前年度中に作成され4月以降実施されてきたスタートカリキュラム（以降、「スタカリ」）の見直し・改善を図る上で絶好の時期である。今回は、スタカリの見直し・改善を通して、カリマネの理解を深めたい。

まず、スタカリだけでなくカリマネ全般において必ず考慮すべきことは目標の具体化と共有化である。目標のベクトルが合っていないと意図的・組織的に教育活動を展開することはできない。特に、小学校1年生に対しては「赤ちゃん扱い」をしがちである。幼児期に育った資質・能力を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10の視点からとらえた上で適切に対応していくことが1年担任だけでなく教職員全体に求められる。教職員の意識や態度は2年生以上の児童にも影響する。

育まれた資質・能力をさらに伸ばしていく上で「主体的・対話的で深い学び」による授業が重要で、その学びの実現に欠かせないのが「学習の基盤づくり」である。いわゆる学習規律や言語活動に必要な技能を意図的に身に付けさせていきたい。教科書上巻14-15ページの写真や言葉が大いに活用できる。

さて、新学習指導要領では、カリマネ実現に向けて3側面が示されている。

一つは教科横断的な視点による教育内容の編成である。スタカリでは生活科を核に展開されている。教科書上巻12～13ページに紹介されている遊びは保育園や幼稚園でも体験している。それらが国語や算数、音楽、図工などの各教科の学習につながっていることを子どもと確認したい。その際に、各教科等の教科書を開いてみて、保育所や幼稚園の遊びとのつながりを考えてみていただろう。

もう一つはPDCAサイクルの確立である。筆者は、カリマネを大きく五つのレベルに分類している¹⁾が、入学式から5月までの学習活動を一覧できるスタカリ完成例は「学校のカリマネ」であり、週案は「学級のカリマネ」であり、いずれもPDCAサイクルのPである。1年の学級担任は日々の実践（PDCAサイクルのD）を通して、週案に朱書きをする。その行為がPDCAサイクルのCである。スタカリの改善（PDCAサイクル

のA）は、次年度の1年生のために、まだ記憶も新しい5月中に行っておきたい。

あと一つは校内外の人的・物的資源の活用である。特に、スタカリの時期は校内における物的及び人的な資源活用の視点から見直す必要がある。学校の施設が安全面も含めて適切に活用されたか、教職員及び上級生が1年生に対して適切に対応できたか、を検証しておきたい。

スタカリは、生活科が学習活動の核となることが多いので「教科等のカリマネ」と捉えることができ、1年入学時と考えれば「学年のカリマネ」にも該当する。しかし、学校が主体となって作成し学校の教職員及び児童で1年生を受け入れるという点においては、スタカリ全体は「学校のカリマネ」（本誌vol.72）である。それをもとに作成される週案は「学級のカリマネ」（本誌vol.74）とも言える。そして、入学した子ども一人ひとりが小学校を理解し、学校生活に慣れ、同級生や上級生と関わりながら安心して自立を図っていく基盤を固めていく上で、「子ども一人ひとりの学びのカリマネ」（本誌vol.73）の実現につながる重要な役割も担う。スタカリはカリマネの全てのレベルに関わっている。

以上のように、5月のこの時期にスタカリを見直すことが、カリマネのレベルや要件、視点を理解することにつながる。カリマネに関する有効な研修となる。参考にしていただきたい。

【参考文献】

- 1) 村川雅弘「カリキュラム・マネジメントの基礎的・基本的な処方22」、村川雅弘編著『カリマネ100の処方』教育開発研究所、pp.19-45、2018年



2020年度版 生活科教科書上巻p.14-15

スウェーデンの「共生の学び」に 主体的・対話的で深い学びを見る

ラーロプラン

民主主義の価値観を伝える教育

雪がちらつく早春の午後、戸野塚厚子教授（宮城学院女子大学学芸学部教授・教育学博士）の研究室を訪ねた私たちを、先生は温かいコーヒーで迎えてくれた。

「スウェーデンではどの職場にも、『フィーカ』というコーヒーブレイクがあります。ただの休憩ではなく、とても大切なコミュニケーションの時間なんですよ」

スウェーデンの教育事情に明るく、何度も現地に足を運んでいる戸野塚先生がそう語るように、スウェーデンでは小学校の教員も、フィーカがなければ始まらない。お茶やコーヒーをすすり、お菓子をつまみながらのフィーカタイムは、ベテランも若手もなく、リラックサして話ができる貴重なひとときだ。

各教科で今、何を勉強しているか。教科横断型テーマ授業の、各

教科の進捗具合はどうか。おもしろい学習材の情報、「こんな試みをやってみようと思う」という意見、それに対するアドバイス。授業での子どもの様子を、先生たちは日々共有し、意見交換をしながら、それぞれの授業の改善を図っていく。

もちろんスウェーデンの先生たちの連携や、ゆとり、は、フィーカのおかげではない。スウェーデンにも、日本の学習指導要領に相当する「ラーロプラン」があり、「必ず教えるべきこと」が決められている。だがそのミニマムさえきちんとおさえれば、そこから先のカリキュラムは、学校や教員の自由裁量に、大きく委ねられているのだ。スウェーデンが誇る「共生」に関する教育も、こうした大らかな教育環境の中で、丁寧に扱われ続けてきた。戸野塚先生はいう。

「スウェーデンでは、次世代を担う子どもたちに、『民主主義の基礎的価値』を、しっかり教えることが重視されています。生命の不可侵性、人間の自由と尊厳、平等、恵まれない人への連帯感などは、学校で教えるべき重要な価値観として、ラーロプランに明記されているのです。共生教育のカリキュラムは、その理念のもとで具体化され、教師の実践が展開しているといえます」

共生を学ぶ

科学的視点で多様性を理解する

「共生」のカリキュラムとは、他者とのあらゆる違いを越えて、連帯していくための学びである。歴史的にも地理的にも、多様な民族、多様な文化が混在するヨーロッパでは、共生は常に身近で深刻なテーマだった。特に国の平等政策や、国民はひとつの「家」で支え合って暮らしているとの「国民の家」思想をもつスウェーデンでは、義務教育から必然的に、「共生」を実現するための学びに取り組んできた。

ラーロプランに最初に「共生」



Profile

戸野塚 厚子

宮城学院女子大学学芸学部教授・教育学博士
筑波大学文部技官・助手を経て1993年に宮城学院女子大学講師、2007年から現職。文部科学省大学設置・学校法人審議会専門委員（2011年度、2013年度）。主な著書に「スウェーデンの義務教育における『共生』のカリキュラム」（明石書店）。



スウェーデンの小学校では、「朝食」や「愛」など様々なテーマで、教科の垣根を越えた総合学習やテーマ学習に取り組んでいる。

同じ理科の教科書では、人の感覚器官を取り上げた章の最後に、「諸感覚は何のためにあるの？」と書かれている。そして目に涙をためた男の子の絵とともに、「諸感覚を働かせて見れば、たとえこの子が地球の反対側から来て、言葉で通じ合えなくても、彼の気持ちはわかるよね？」との一文が。家庭科でも、「今日はいろんな国の人たちが、一緒に晩ご飯を食べます。どんな肉を選んだら、みんなハッピーになりますか？」と、教科書が問いかけてくる。

障がいについても同様で、「障がいは環境によってつくられる」という概念をまず教える。普段は自由自在に言葉を話している日本人も、外国へ行ったとたん、言葉が通じないという。障がいは「直面する。疾病と障がいはイコールではない。障がいは環境によってつくられるので、バリアフリーが進んで環境が整えば、障がいはかなりの部分軽減されるし、障がいはなくなっていく。こうした観点から、子どもたちに障がいの本質に気付かせる。それが障がい者との共生の、第一歩になるという発想だ。

「共生」のための教育が、「仲良くしましょう」、「多様性を大事にしましょう」と叫ぶことではないのは、興味深い。偏見を乗り越え、真の共生に近づくためには、科学的な視点で違いを学ぶことが不可欠だと、戸野塚先生は語る。



フィーカを楽しむスウェーデンの教師たち。「日本でも素晴らしい授業を実践されている先生がたくさんいるので、シェアし合うことが大事」。

日本の小学校にて 一人ひとりの違いに目を向ける

「共生」というテーマは、日本の小学校の生活科や、総合的な学習の時間の中でも、様々な展開できる領域ではないかと、私は可能性を感じています」

そう言って、先生はある日本の小学校教師の取り組みを紹介してくれた。小学校3年生の総合学習の時間で行われた、「目」を描く活動である。

子どもたちは自分の目を、じっくり観察しながら描き、それから思ったことを発表しあった。「目の色は黒だと思っていたけど、ぼくの目は茶色だよ」「青とか黒とか茶色とか、いろんな目の色があるのはなぜ?」「目が見えないというのは、どういうことなんだろう?」

やがて子どもたちは、「目はみんなにある。でも同じ目はひとつもない」と気付いていく。この授業を受けて、色に関する授業を行った大学院生もいる。子どもたちにヒマワリの絵を見せ、「この黄色は、どの人にも同じように見えているのだろうか?」と、問いかけた。そしてひとしきり話し合いが続いたあとで、「実は視細胞には、桿体細胞と錐体細胞があって、色を識別している。でもその数は人によって違うから、全員が

まったく同じように見えているとは限らない」と話した。目そのものも、見え方も、一人ひとり違ってあたりまえ。日本の小学校で、立派な「共生」の授業となった。

子どもが主役 活発な話し合いが深い学びを生む

「目」と「色」の授業では、科学的な知識を与えること、子ども自身の気付きに重点が置かれていた。この「子ども自身の気付き」を大切にしたい学びは、スウェーデンで行われている「共生」をめぐる授業とも、わが国の新学習指導要領がいう、「主体的・対話的で深い学び」とも通底する。

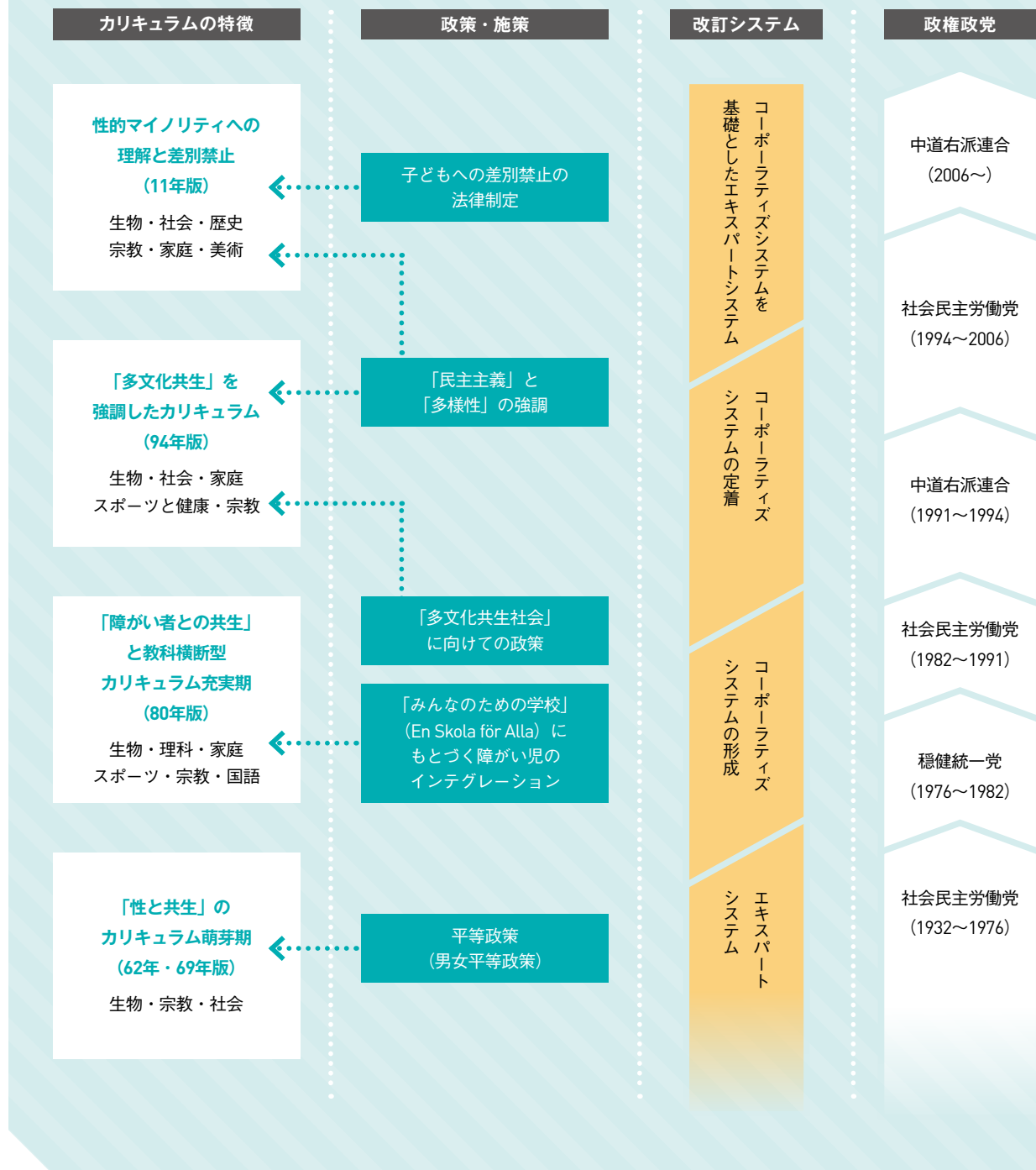
「子ども主体の対話的な授業で気を付けたいのは、先生が『こうじゃなかな?』と軌道修正をしたり、



「教師は教え子どもは学ぶという、大人と子どもの関係を変えること。教師には、子どもたちとともに考え、ともに学ぶ姿勢が求められている。子どもたちの想定外のつぶやきや発言が思わぬ深まりや進展につながるかもしれない」。

文・田中洋子 撮影・伊藤美香子 写真提供・戸野塚厚子

「共生」のカリキュラムの変遷



参考:「スウェーデンの義務教育における「共生」のカリキュラム」(明石書店)



ヤギ担当の4年生の児童がヤギのお世話をして、みんなにお願いしたいことをポスターにしました。

東京都「小学校動物飼育推進校」(以下、推進校)事業にて武蔵村山市立第一小学校が推進校の指定を受け、烏骨鶏は青梅畜産センターから、ヤギは東京農工大学から譲渡してもらったことになった。また年間を通して、専門的な知識をもった学校担当獣医師から直接指導を受けられることは安心である。まず、本校の動物飼育の実態について、副校長・三品佳子先生がまとめたものを紹介する。

※23ページまで。

生後30日で作ってきた烏骨鶏は、3年生が中心となり世話にあたり



ヤギの体にとってよくないものを食べたらどうなるか絵本にしました。全校朝会で発表し、廊下や階段の掲示板に張ってあります。



1年生が生活科の時間に学んだことを記録しています。うさぎのおうちと体の特徴についてまとめています。



烏骨鶏は大人しく抱かれます。児童の人気者です。烏骨鶏のいる桜の木の下は大勢の児童で賑わっています。



生活・総合への提言



烏骨鶏とヤギがやってきた

東京都武蔵村山市立第一小学校校長 押本 純樹

ともある。休日は親子ボランティアを募り、世話をお願いしている。家族総出で世話にあたる家庭も多い。掃除や餌やりの後、時間があればリードにつなぎ、校庭を散歩させる。普段は学校に訪れることの少ないお父さんの出番でもある。

保護者や児童だけでなく、地域の保育園やご近所の方もヤギに会いに来るようになった。散歩の途中に立ち寄り、持ってきた野菜くずをあけてひとときを過ごしていく。また、地域の方からは、畑や家庭菜園のおすそわけもいただいている。小型の動物とは違った大型の動物ならではのふれあいと交流が生まれている。

生活科や総合科、委員会活動の中で、獣医師と連携し、「命」について、目の前の動物たちから学ぶ機会を得た。心音を聞き比べたり、実際に抱いたり、触れたりする中で生命の鼓動を感じ、自他の生命を大切に思う気持ちを持つこ

とができた。

3・4年生が進級すると、次の学年に世話を交代する。別れの日が来るのが辛くて、交代前から涙を流す児童がいる。それだけ烏骨鶏やヤギに愛情を注いで関わってきたのだ。

今後この動物飼育を続けていくために、どのような条件整備を進めていけばよいのか課題は山積している。ただ、どの学校でも、今いる飼育動物を大切にしたい。大切に育てる中で、命の大切さを理解し、心の成長へとつながっていくはずである。



農工大学の教授にヤギの体の仕組みや世話の仕方を教わっているところです。

【小学校動物飼育推進校とは】

小学校において児童による継続的な動物飼育を円滑に実施するためには、専門的な知識をもった獣医師等と連携して、よりよい体験を与える環境を整えることが必要である。そこで、獣医師等との効果的な連携の在り方について検討し、実践する「小学校動物飼育推進校」(以下、「推進校」)を指定し、各推進校での成果を全都に普及・啓発している。



休日のヤギ親子ボランティアの説明会には大勢の保護者の方が集まりました。土日は、ボランティアの家庭が一日2〜3回交代でヤギの世話をしてくれます。ウサギ・文鳥・烏骨鶏はホームステイもお願いしています。

近隣の保育園の園児たちが会いにきます。持ってきた餌をあげ、たくさんふれあい、大変な人気者です。これまでに2回、学校から保育園に出張して喜ばれています。

動物さん、こんなにちは！

学校飼育動物について考える

動物さん、こんにちは！

さて、前のページのようにたくさん飼育動物が来て、学校は賑やかになった。教育効果は子どもたちの様子を見ている限りでは、とても有効なことがわかる。動物嫌いな子も含め、子どもたち全員の中に何かしらよい影響があるのではないかと思っている。ヤギ二頭、烏骨鶏三羽、ウサギ一羽、文鳥一羽を飼っている学校は、東京都ではそうないという自負がある。



積極的にヤギの散歩をする児童。

しかし、正直、学校長として、不安がないわけではない。生きものを継続して学校で飼育するには協力体制が整わなければできない。

◆効果があるのは誰もが知っている。みんながわかっている。でも、私は絶対やらない。

◆道徳が教科になり、英語教育の時数が増える中、大変なことを始めたね。大丈夫かい。

◆まさに教員の働き方改革に逆行している取り組みだね。

これは、率直な感想として、私の耳に入ってきた。信頼関係がある方々で悪意はなく、微笑み合いながらの会話の中にあつた言葉だ。真摯に受け止めている。実は私もそう思っている。あまのじゃくの性格や行動が先に出て後から考える気質のせいかな、何とかなるだろうと決断してしまったのが正直なところである。



ウサギのマロンも子どもたちの人気者。

けれど、副校長を始め、職員、市長・教育長を含めた地域の温かい眼差しのおかげでここまでは順調にきている。2学期からは私も朝七時半から白衣を着て、当番の3・4年生と一緒に小屋の掃除などをしている。これは性に合っているのか、楽しいひとときだ。それでも、学校が休みの日の対応が心配だが、副校長の声掛けのもと、保護者・地域にご理解とご協力を

賜り、滞りなくお世話をしていただいている。感謝しかない。私を含め、教職員の異動があっても、動物飼育の協力体制を維持しながら活動を継続できるように工夫をしていくことも大切だと考えている。校長室の窓から毎日無邪気に動物とふれあっている子どもたちが見られる。今、幸せである。生命を尊重しようとする態度は、生命に直接ふれあつてこそ養えるものである。



推進校との連携で学校を訪れた獣医さんの話に耳を傾ける児童。

大変なのはわかっている

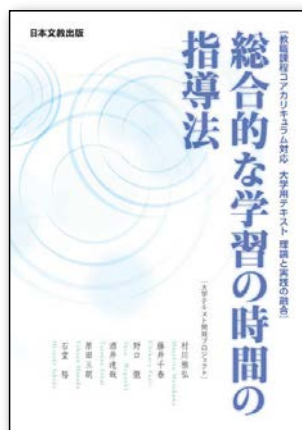
好評
発売中

日文の書籍シリーズ

総合的な学習の時間の指導法

～教職課程コアカリキュラム対応 大学用テキスト 理論と実践の融合～

新刊



2019年度から教職課程を有する大学・短大で必修化される「総合的な学習の時間の指導法」。本書は、「総合的な学習の時間」の理論と全国各地の優れた実践を紹介した教育現場待望の一冊。大学での使用はもちろん、教員研修など現場の先生方にも最適。

編著 大学テキスト開発プロジェクト

定価 **2,484**円(本体2,300円+税8%)

B5判 207頁 ISBN 978-4-536-60106-1

発行 日本文教出版



サクスタ2

無料
配布中

地域や児童の実態を踏まえて、パズルを完成させるようなイメージでスタートカリキュラムを作成できる！

新学習指導要領のポイント、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿などを踏まえながら、使いやすく、現場に即した計画・実践を円滑に行うことができるツールです。自校の予定時間数に合わせて作成した日課表「サクスタシート」に、15分単位で設定できる学習活動の「サクスタピース」を組み合わせて、オリジナルのカリキュラムを始めてみませんか？

サクスタ2は日文Webサイト内で無料公開中！

日文 サクスタ2 検索

※冊子をご希望の方は、小社大阪本社 業務部(TEL:06-6695-1771)までお問い合わせください。

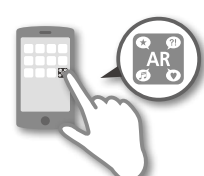
監修 村川雅弘 和田信行 開発 八弼明美

お求めは、最寄りの書店でお願い致します。

※商品のお問い合わせは、お手数ですが、裏面所在地より小社大阪本社業務部へお願い致します。

スマートフォンやタブレットをかざすと動画が楽しめる！

- 1 スマートフォンまたはタブレットで、ストアアプリを起動します。
- 2 「カザスマート」で検索し、アプリをダウンロード。
- 3 「カザスマート」アプリを立ち上げます。
- 4 ARマークがあるページで紙面全体にかざすと、動画が始まります！



★P.6～13(特集)、P.18～21(第2特集)で視聴できます。
※動画は、2019年9月30日まで視聴することができます。